

# 企業ニュース 昭和電工

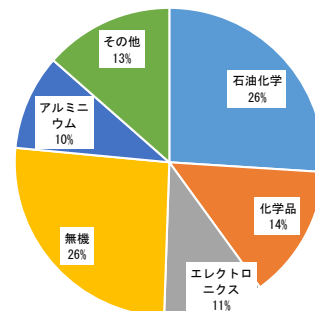
(東証1部: 4004) <http://www.sdk.co.jp>

作成者: 兵藤三郎

## 幅広い事業領域を持つ国内大手化学メーカー

◇18. 12期売上高構成比

1939年、日本電気工業（1926年日本沃度として設立）と昭和肥料（1928年設立）との合併により誕生した、国内大手化学メーカー。電気化学に端を発し現在では無機化学品なども含め幅広い領域で事業展開している（右図参照）。高シェア、独自製造技術、高品質など競争力の高い製品を多く持つ。黒鉛電極、ハードディスク（HD）、半導体製造用特殊ガスなどが代表格。世界トップシェアの黒鉛電極は電炉鋼製造時に使用される消耗品で、高品質大口径品（UHP）に強みを持つ。HDは外販トップメーカー、次世代記録技術であるマイクロ波アシスト磁気記録（MAMR）対応品を開発した。同製品はアルミ基板製1枚当たり2TBの高容量メディアである。特殊ガスではHBr、C<sub>4</sub>F<sub>6</sub>など20種類の高純度ガスを生産、量は少ないが日韓貿易問題で注目が高まったフッ化水素も含まれている。



(出所) 昭和電工資料よりCAM作成

## 黒鉛電極の生産調整などで下方修正

19. 12期・第2四半期（1-6月）累計の連結業績は売上高が4,755億円、前年同期比4%増、営業利益が855億円、同10%増。電子材料、自動車、FA・産業機器など当社がかかわる業界が世界経済の減速を受け生産調整などで苦戦したが、黒鉛電極の好調で補い利益（営業、経常、純）は過去最高を更新した。黒鉛電極の好調は中国の景気減速・貿易摩擦や欧州での在庫調整などの影響を受けたが、価格の上昇が寄与した模様。

19. 12期連結業績の会社計画は売上高が9,800億円、前期比1%減、営業利益が1,450億円、同19%減。上期業績は伸長したが計画は未達、加えて下期に黒鉛電極減産を計画していることなども勘案し、期初計画を売上高で1,200億円、営業利益を450億円下方修正した。減産は欧州拠点での品質改良工事に伴うもので、旧SGLの工場が製造するUHPが汎用品（Tier2）のため、顧客ごとにカスタマイズされた（Tier1）電極を製造できるようにする。この改良により、高付加価値品の販売が可能となろう。

### [株価動向・投資判断]

黒鉛電極の生産調整を主因に下方修正だが、それに伴う改良工事は来期以降の増益要因として期待できよう。新規顧客の獲得も進むMAMR方式のメディアにも期待が持てよう。

<4004 昭電工 業績: 日本基準>

[今期予想の配当金は発行会社予想]

	売上高	営業利益	経常利益	当期利益	1株利益	1株配当
	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	百万円 (伸び率)	円	円
17. 12	780,387 ( 16)	77,708 ( 85)	63,851 ( 65)	37,404 ( 204)	262.4	80.00
18. 12	992,136 ( 27)	180,003 ( 132)	178,804 ( 180)	111,503 ( 198)	758.2	120.00
19. 12 予	980,000 ( ▲ 1)	145,000 ( ▲ 19)	142,000 ( ▲ 21)	90,000 ( ▲ 19)	617.0	130.00



[主要株価指標] (売買単位: 100株)	
株価 (2019/9/20)	2,939 円
年初来高値 (高値日)	4,365 円 (19/4/4)
同 安値 (安値日)	2,510 円 (19/8/6)
予想 P E R (19. 12 予)	4. 8 倍
1株株主資本 (PBR算出用)	3,366. 4 円
P B R	0. 87 倍
予想配当利回り	4. 42 %
(1株当たり配当金年130. 00円)	
R O E (18. 12)	27. 9 %
発行済み株式数	14,971 万株